

潤いの森 7月



ニワトコ

ガマズミ科 落葉低木
実の鑑賞期：6-7月



キミノエゾニワトコ



春早くから咲いていたニワトコが実をつけ始めました。ニワトコは縄文時代から食料や薬草として使われており、三内丸山遺跡からは、ニワトコ酒にしたであろうニワトコの絞り殻が見つまっているそうです。



写真引用元：
「森と水の郷あきた」より

タケ（マダケ）

イネ科常緑小低木



昔から竹は神聖な植物で、神様やご先祖様が地上に降りる目印と言われていました。そこで、七夕では建物の側に竹を立て、神様をお迎えする準備をしたそうです。

ニホントビバナフシ

ナナフシ目トビバナフシ科
観察時期：6-11月



退化した翅（メスはほとんど飛べません）

ナナフシは、通常単為生殖でメスだけで繁殖する少し変わった昆虫です。オスもいることにはいますが、日本では滅多にお目にかかれないようです。但し、南の方に行けば行くほどオスを発見することが増え、交尾での繁殖になるそうで、何とも不思議な昆虫です。

幼体の食事

幼虫はクヌギやクリなどの樹の葉を食べます。



カラスアゲハ

チョウ目アゲハチョウ科
観察時期：4-9月



翅の部分が青緑にキラキラと輝くクロアゲハの仲間です。この時期の潤いの森では、ネムノキの花蜜を吸うチョウが多く、上を見上げると見つけることができます。食草はサンショウの葉です。潤いの森のサンショウの木で見つけることができるかもしれません。



キマワリ

甲虫目ゴミムシダマシ科
観察時期：4-9月



キマワリは、キノコを食べる甲虫です。食べているキノコはベッコウタケと呼ばれるキノコで、このキノコがでるとその木は腐朽が進み、いずれ倒木の危険があるとされているため要注意のキノコです。

ヤマトタマムシ

甲虫目タマムシ科 観察時期：4-12月



潤いの森では、ヤマトタマムシをよく見かけますが、関東では栃木県と千葉県を除く県で保護生物に指定されており、日本では貴重な虫になりつつあります。

タマムシはヤマトタマムシが有名ですが、日本にはタマムシ科は250種もいるそうです。潤いの森では6種類発見されています。

タマムシ色々



オオウグイスナガタマムシ



コウゾチビタマムシ



ヒシモンナガタマムシ



ヒメアサギナガタマムシ